

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 11月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902504		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム ユニティー旭神		
所在地	北海道旭川市旭神2条4丁目10番4号 (電話) 0166-66-1294		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年11月11日	評価確定日	平成21年11月20日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 1月 25日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 14人、非常勤 3人、常勤換算 15.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:15,000円	
敷金	有(円)	無	暖房費:10,000円(11-3月)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	69歳		89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	旭川ペインクリニック病院・やわらぎ泌尿器科 旭川南病院・矢口歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな新興住宅街に位置し、近隣には公園・スーパー・飲食店があり恵まれた環境にある事業所である。デイサービスを併設し、2、3階がグループホームとなっている。共有空間は掃除が行き届き清潔感にあふれ、居間、食堂、段差のない畳敷きのスペースは間仕切りがなく一つの空間になっており、利用者は思い思いにそれぞれの場所でくつろいでいる。「個性を尊重し、自分らしく、満足できる生活を送れるよう支援します」という理念のもと、利用者本位のケアに努めている。利用者はそれぞれの力量に合わせ役割をもち、ときに職員を励まし、得意なことを披露するなど、職員、利用者と共に支え合う関係を築いている。開設4年目で地域との交流も少しずつ行われているが、これから益々交流を増やし、運営推進会議などを通して災害時の地域の協力関係を構築され地域に根ざした事業所となることを期待する。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題である災害時の地域協力関係の構築は、現在までのところ災害時対応のマニュアルを作成中であり、次回運営推進会議で議題とし協議を進めていく計画となっている。その他の議題は引き続きの課題としている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者が作成し職員に意見を求める形で行われている。自己評価を通して日々のケアの振り返り気付きのときとしている。外部評価、自己評価共に運営推進会議で報告し話し合いがなされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は町内会長、民生委員、家族、居宅介護支援専門員、地域商店主が出席し3ヶ月に1度開催されている。事業所の活動報告や行事予定の他、自己評価や外部評価の報告、認知症ネットワークの周知、出席者からの助言などがあり、それらを活かして質の向上に役立てようと取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時や運営推進会議、家族会の忘年会などで、気軽に意見、要望を言ってもらえる雰囲気作りに努め、意見、要望があればその都度、検討し対応している。また、毎月通信やお便りを家族に送り利用者の様子を報告している。預かり金の金銭出納帳の報告も、預かり金がなくなった都度行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、利用者と共に清掃活動に参加したり、盆踊りや敬老会などの行事にも参加している。また、事業者の夏祭りを地域の方に案内し交流の機会としている。日常の散歩のときに挨拶をかわし顔なじみとなってきており、町内共同の畑に町内の方がグループホーム用に作物を栽培してくれるなど地域交流が構築されてきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは入居者様の個性が尊重され自分らしく満足できる生活が送れるよう支援します」という事業所独自の理念を掲げているが、地域密着型としての理念の見直しはまだ行われていない。		地域密着型サービスとしての意義を職員間で話し合い、地域の中でその人らしく暮らし続けることの大切さを確認し、事業所独自の理念を再検討されることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を理解し、ミーティングなどで共有し、日々のケアで理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者と共に町内清掃活動や廃品回収の協力など町内会行事へ参加し、交流している。事業所の夏祭りを地域の方に案内し、参加を呼びかけ、事業所に来てもらう機会としている。日常の散歩を通して顔見知りとなっており、町内共同の畑に町内の方がグループホーム用に作物を栽培してくれるなど地域交流が構築されてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価、外部評価の意義を理解している。今回の自己評価は、管理者が職員に意見を求める形で行われ、自己評価を通して日々のケアの振り返り、気付きのときとしている。前回の外部評価の改善課題である、災害時の地域協力の構築は災害時対応マニュアル作りが現在進められ、前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は町内会長、民生委員、家族、居宅介護支援専門員、地域商店主が参加し、3ヶ月に1度開催され、グループホーム運営状況、行事予定などの報告がされている。会議を通し、SOSネットワークを地域の方に知ってもらう機会としたり、また、地域の方からアドバイスをもらい日々のケアに活かす取り組みをしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者とは疑問点を電話で問い合わせ意見を伺い、また地域包括センターからは研修の案内や情報してもらうなどしている。できる限り研修に参加しサービスの向上に役立てている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、通信やお便りを家族に送り、利用者の暮らしぶりや職員の異動を報告している。預かり金の金銭出納帳の報告や受診後の報告も行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時、運営推進会議、家族会の忘年会の時など気軽に話せる雰囲気作りに努めている。意見、要望があればその都度、職員で話し合い対応している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員間の仲がよく連携がとれているので離職する職員は少ない。やむを得ず退職し職員が替わる場合も、新しい職員の研修期間をおいて慣れてもらい、他の職員がフォローし利用者に不安を与えないように配慮している。</p>		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修として、入社時研修、3ヶ月研修、1年研修を同一法人で行っている。その他、同一法人の研修委員会での学び、グループホーム協議会や外部研修に参加している。研修報告は、同一法人のホームページに研修記録などを掲載し全職員が閲覧するシステムとなっており、共有している。</p>		<p>外部研修後、報告は同一事業所のホームページに報告書を掲載し、職員が報告書を必ず読みチェックを入れ共有するシステムとなっているが、事業所独自の内部研修として、ミーティングなどで共に学び、また、外部研修の報告も行い、より細かな共有がなされることを期待する。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホームのネットワークを通じて管理者同士が連絡をとり、共同で救急救命講習を開催し職員の交流の機会とした。しかし、相互訪問などの交流はまだ行われていない。</p>		<p>職員の他グループホームの相互訪問の機会を作り、サービスの向上に役立てる取り組みを期待する。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に利用者宅を訪問し、利用者、家族と面談し、施設を見学してもらい、お茶を飲んだり、時に食事をすることで少しでも馴染んでもらうように配慮している。来訪できない方については、職員が自宅を訪問し、職員と顔馴染みになってから入居してもらっている。また、デイサービスを利用した方が入居することもあり、できるだけ馴染みの関係を築いてから入居してもらうように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者一人ひとりのできること得意なことを見極め、調理の味付けを教わったり、食事の準備や後片付けを手伝ってもらうなど介護されるだけの立場に置かないように配慮している。また、職員が落ち込んでいる時に利用者から慰めてもらうこともあり、共に支え合う関係を築いている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p align="center">・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用開始時に家族から生活歴や環境、家族構成などの情報を収集すると共に、利用者の日々の関わりの中からセンター方式を利用し思いや意向を汲み取っている。また、家族の要望も考慮しながらミーティングの時に職員と話し合い、利用者本位に検討している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、一人の職員が1~2名の利用者を担当し、ミーティングの時に全職員で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。独自のケース記録シートを使用し、ケアプランとケース記録が連動しているので、効果的に評価でき、見直しにつなげている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは基本的には3ヶ月に1度であるが、利用者に状態変化があればその都度見直しを行っている。リアルタイムでの見直しになるように努めている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>かかりつけ医への受診支援、馴染みの理美容への送迎、買い物支援、月命日にお坊さんがお参りに来るなど、利用者の希望に沿った柔軟な支援を行っている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する医療機関の受診支援を行っている。また、協力医療機関の医師の往診や訪問看護師との医療連携もあり、また、管理者が看護師ということで日常的な健康管理が継続的に行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における方針を本人・家族・医療機関と話し合い、最大限のケアを行う体制をとっている。入居前の重度化や終末期に向けた方針の指針・同意書は作成されておらず、これから前向きに検討する予定である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常のケアにおいて言葉遣いや羞恥心に配慮した対応をし、守秘義務についても職員間で周知している。個人情報の書類は事務室に保管し、また面会簿も個票となっておりプライバシーに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、起床時間もそれぞれで、朝食も7時から9時までの間の好きな時間に食べれるようになっている。また、晩酌が好きな方も量を加減しながら、希望に合わせて支援している。夏場には希望する方に毎日散歩支援も行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じテーブルで一緒にの食事をしており、食事の準備や後片付けも利用者の力量に応じて一緒に行っている。献立は職員が作るが、利用者に本を見て選んでもらったり、誕生日にはその方の好きな物を提供し、また、月に一度は外食するなど利用者の希望にできるだけ沿うように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるようになっており、曜日の決めがなく、週に2、3回は入ってもらうようにしている。利用者の状態や希望に応じて併設デイサービスの大浴場に対応することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの興味や力量に合わせて、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、ゴミ出しなどそれぞれが役割を持つように支援している。また、ビデオ鑑賞や風船パレー、塗り絵、トランプなどの楽しみや、月一度の遠出のドライブや散歩などの気晴らしの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、毎日の散歩や通院・買い物支援を行っている。また、ドライブや外食、町内会の行事に参加するなどの外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、夜間のみ防犯上施錠している。利用者に出かける様子がみえる時は、外に出たい理由を大切にし、寄り添うケアをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練は年2回、昼間だけでなく、夜間想定でも行われているが、災害時の地域の協力関係はまだ構築されていない。救急救命講習は全員受講している。</p>		<p>運営推進会議などを通して、災害時の協力関係を構築し、避難訓練にも参加してもらえような関係を築かれることを期待する。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の食事量、水分量は個別に把握され、職員間で共有されている。利用者の状態に合わせ、食事の量や食器を持ちやすいものにするなどの支援を行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は居間、食堂、段差のない畳敷きのスペースがひとつながりとなっている。窓も大きく明るく、気になる臭いもない。廊下は回廊式になっており、十分な距離や幅が確保できており、手軽な歩く運動として冬場に多く利用されている。家具や照明は落ち着いたある雰囲気を感じさせる物を使用している。グループホーム内の掃除が行き届き清潔感にあふれている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者はそれぞれ、使い慣れた家具や装飾品、写真などを持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。仏壇やソファなども持ち込む方もおり、家庭的な雰囲気となっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。